

## 埼玉親善大使・フィンドレー大学奨学生レポート③（10月） 「フィンドレーのハロウィン」

キャンパスの木々が鮮やかに染まり、フィンドレーの秋を見せてくれる季節になりました。しかし秋らしさを感じたのも束の間、下旬には霜も降り私たちに冬の厳しさを予感させます。

第3回目となる今回のレポートでは、フィンドレーのハロウィンについて紹介したいと思います。

### ■ ハロウィンとは

日本にいとハロウィンという文化に触れる機会はありません。事実、私自身日本にいと間はあまり関心を持ってませんでした。日本では仮装をしようという人は多くなく、お菓子を貰いに来るとな子供も少ないため、参加しようという気になれなかったのです。しかしフィンドレーで街全体の本格的な準備を見て、アメリカにいと間に実際に体験したいと思いました。

ハロウィンの起源は元を辿ると宗教的な行事ですが、現在ではそういった意味合いはあまり強くはないようでした。9月の半ば頃から徐々に街でハロウィングッズが売られ始め、少しずつ装飾が増えつつ10月31日のハロウィンに向けて盛り上がりを見せていました。

ハロウィンでは子ども達が魔女やお化けに仮装し、家々を訪ねては「トリック・オア・トリート！」と唱えます。そして訪ねられた家庭はお菓子を渡す、というのは日本でもおなじみの文化だと思います。私はそのやりとりはどういった由来があるのか知らなかったのでアメリカ人の友人に聞いたところ、これは本来悪霊などから子どもを守るために変装させ、悪霊との見分けがつかないようにする、といった意味が込められていると教えてもらいました。また、家々を回って悪戯するかお菓子を渡すか、と要求するのも、仮装だけでは不十分なのでお菓子を施されるか悪さをするかという悪霊らしい行動を取るのが目的だと教えてもらいました。実際に由来を聞いたことで、今までその不思議に思っていた点が解消され合点がいきました。どんな文化にも起源があり、続けられてきた理由があるということに改めて実感することができました。

### ■ ハロウィンパレード

フィンドレーでは毎年ハロウィンにパレードを開催しているそうです。これは様々な団体が参加し、それぞれがハロウィンの衣装に身を包みフィンドレーの中心の大通りを歩くという街を挙げた一大イベントで、フィンドレー大学からも毎年参加しているということに聞いていました。ハロウィンの文化を実際

に体験したかったので、今回は Japanese Culture Club の皆と一緒に仮装しパレードに参加してきました。

パレードの移動距離自体は長くはありませんでしたが、大通りの両脇には街中の子ども達が溢れていました。この子供たちは勿論パレードを見に来ているのですが、同時に彼らはパレードの参加者にお菓子を要求します。こうしてパレードを進めながら子ども達の抱えるバケツにお菓子を入れていくというのがこのパレードのもう一つの目的でした。

アメリカの人達のハロウィンにかける熱意は、私たちの想像をはるかに超えていました。こういった肌で感じる体験に積極的に触れ、願わくはそういった経験をこのような形で少しでも伝えることができればと思います。



パレードの様子



パレード参加メンバー集合写真